

## 桃山天満宮の奉納大工道具

福持 昌之

### 1. はじめに

桃山天満宮の奉納大工道具は、京都市伏見区に鎮座する桃山天満宮<sup>1)</sup>が所有する近世期に神社建築のために使われていた大工道具一式である。桃山天満宮は、現在、御香宮神社<sup>2)</sup>の境内の一隅に鎮座しているが、昭和44年(1969)以前は、近鉄桃山御陵前駅の東側に隣接する伏見区観音寺町にあった。その地に社殿が建設されたのは天保12年(1841)のこととされており、この大工道具一式は普請を請け負った伏見の大工・阪田岩治郎が竣工記念として奉納したと伝える<sup>3)</sup>。

これらは三段の抽出付き道具箱に収められ、本殿背面の回廊上に安置されており、昭和39年(1964)に中村雄三が調査し<sup>4)</sup>、昭和43年(1968)には中村の『図説 日本木工具史』に「桃山天満宮蔵 大工道具(実用品)」として紹介された<sup>5)</sup>。昭和57年(1982)には、竹中大工道具館<sup>6)</sup>により、資料目録が作成され<sup>7)</sup>、昭和59年(1984)3月29日に竹中大工道具館に寄託された<sup>8)</sup>。竹中大工道具館の開館は昭和59年(1984)7月であるが、調査・収集活動は昭和55年(1980)から着手しており、その際に指導を仰いだ専門家の一人に中村雄三がいたため、桃山天満宮への訪問調査も中村の影響が考えられる<sup>9)</sup>。

昭和60年(1985)以降、竹中大工道具館では、主任研究員の渡邊晶による詳細調査が進められ、平成2年(1990)から同館の紀要に7編の論文としてまとめられた。これにより、道具箱を除く59点のうち59点の実測図面と法量が公開され、それぞれの道具の特徴と群としての価値が明らかになった<sup>10)</sup>。

その後、平成8年(1996)には、国立歴史民俗博物館の企画展「失われゆく番匠の道具と儀式」に出品され<sup>11)</sup>、平成12年(2000)にも同館の企画展「オランダへわたった大工道具」にも出品されるなど<sup>12)</sup>、世間の注目を浴びる機会も得た。平成21年(2009)には、『水彩画で綴る大工道具物語—竹中大工道具館収蔵品』が発行され、「宮大工の道具—坂田岩次郎」として60点がイラストで紹介された<sup>13)</sup>。

京都市では、平成11年度(1999)から平成19年度(2007)にかけて、祇園祭の山鉾装飾品の有形民俗文化財への指定を順次おこなってきたが、その後、無形民俗文化財の指定・登録が続いていた。本件が有形民俗文化財の指定・登録候補となったのは平成26年度(2014)で、竹中大工道具館を訪問して現況確認を実施し<sup>14)</sup>、関係者と調査に向けた調整を始めた。その後、平成29年度(2017)に指定に向けた調査を実施し<sup>15)</sup>、当年度の京都市文化財保護審議

会の諮問・答申を経て<sup>16)</sup>、「桃山天満宮の奉納大工道具」として、京都市の有形民俗文化財に指定した<sup>17)</sup>。

本稿は、その指定に至る経緯および文化財の内容、新たに判明した事実などについて、報告するものである。

## 2. 大工道具の構成とその特徴について

桃山天満宮の奉納大工道具の内訳は、墨掛道具・定規類が6点、罫引が1点、鋸が6点、鉋が7点、錐が3点、玄翁・槌が5点、鑿が29点、雑道具（道具箱を含む）が3点の合計60点で、それに付随して鋸の鞘2点、鑿の鞘7点、雑道具のうち小刀の鞘1点の合計10点の鞘がある（史料1一覧表）。いずれも使用痕や研ぎ減りがみられることから、儀式用ではなく実際に使用された道具であることがわかる。

日本の伝統的な大工道具の構成については、昭和18年（1943）に東京土木建築組合が労働科学研究所に委託した調査の成果に詳しい。この調査の担当は同研究所の黒

川一夫で、昭和24年（1949）に『わが国大工の耕作技術に関する研究』として出版された<sup>18)</sup>。そこで明らかになった「大工道具の標準編成」は、必要にして十分な整備形式である第一形式と、最低限の整備様式である第二形式に分類されている。これに桃山天満宮の奉納大工道具を比較すると、斧・鉋、釘抜と釘締、砥石や鑿が含まれないものの、ほぼ網羅されていることがわかる（表1）。

大工道具の伝世品で文化財に指定されているものは、上棟式などで使用される儀式用と、実際に建築現場で使用されてきた実用品に大別できる。そのうち儀式用では、寛永13年（1636）に使用された「日光東照宮儀式用道具」<sup>19)</sup>や、「小野家伝来儀式用道具」<sup>20)</sup>などが知られ、その構成は墨壺、墨さし、曲尺、鉋を基調としたもので、飾箱に収められる<sup>21)</sup>（表2）。

一方で、実用品として知られるのは、安永10年（1781）に新調された「藤井家旧蔵大工道具」<sup>22)</sup>があり、罫引、鑿、錐、鉋など34点が道具箱に収められている。時代が下って江戸時代から明治時代にかけて

表1 大工道具の標準編成と桃山天満宮の奉納大工道具の編成

| 大工道具の標準編成   | 第一形式 | 第二形式 | 桃山天満宮の奉納大工道具 |
|-------------|------|------|--------------|
| 墨掛道具と定規類    | 14   | 10   | 6            |
| 毛引（罫引）      | 3    | 2    | 1            |
| 鋸           | 12   | 4    | 6            |
| 鉋           | 40   | 9    | 7            |
| 錐           | 26   | 10   | 3            |
| 玄翁と槌        | 6    | 4    | 5            |
| 鑿           | 49   | 14   | 29           |
| 鉋・鉋         | 2    | 2    |              |
| 釘抜と釘締       | 9    | 5    |              |
| 砥石・鑿などの雑道具類 | 18   | 13   | 3（箱・雑道具類）    |
| 合計          | —    | —    | 60           |

第一形式・・・必要にして十分な整備形式

第二形式・・・最低限の整備形式

（出典：労働科学研究所編『わが国大工の工作技術に関する研究』1949年）

表2 儀式用の大工道具（伝世品）と内訳

|                 | 墨壺 | 曲尺 | 墨さし | 鉦 | 槍鉋 | 扇 | 石帯 | 冠 | 烏帽子 | 置台 | 大紋 | 箱 | 備考                  |
|-----------------|----|----|-----|---|----|---|----|---|-----|----|----|---|---------------------|
| 日光東照宮<br>儀式用道具  | 1  | 2  | 2   | 1 |    |   |    |   |     |    |    | 1 | 寛永13年(1636)<br>・国宝附 |
| 旧甲良家伝来<br>儀式用道具 | 1  | 2  | 2   | 1 |    |   |    |   |     |    |    | 1 | 寛永13年(1636)         |
| 春日大社<br>儀式用道具   | 2  | 2  | 2   | 1 |    |   |    | 1 |     |    |    | 1 | 慶安3年(1650)          |
| 松井家伝来<br>儀式用道具  | 2  | 2  | 2   | 1 | 1  | 1 |    |   |     |    |    | 1 | 文化6年(1809)          |
| 旧平内家伝来<br>儀式用道具 | 1  | 2  | 2   | 1 |    |   |    |   |     | 1  | 1  | 2 | 文政3年(1820)          |
| 小野家伝来<br>儀式用道具  | 1  | 1  | 1   |   |    |   | 1  | 1 | 1   |    |    | 1 | 江戸時代                |

(国立歴史民俗博物館編・発行『失われゆく番匠の道具と儀式』1996年より作成)

使用されてきた大工道具として、奈良の春日大社などの造営に携わった木奥家が所蔵する「春日座大工木奥家資料」<sup>23)</sup>に含まれる、鑿、鉋、小型鋸などの大工道具194点がある。

桃山天満宮の奉納大工道具は、時間軸においても、数量や構成においても、「藤井家旧蔵大工道具」と「春日座大工木奥家資料」の間を埋める大工道具の群として、注目すべきものである<sup>24)</sup>。

次に、桃山天満宮の奉納大工道具の構成から、特徴を紹介しておく<sup>25)</sup>。

墨掛道具・定規類は、「墨壺」1点、竹製「墨さし」<sup>かねじやく</sup>3点、「曲尺」大小2点である。墨壺は赤色の顔料を使用したいわゆる朱壺であり、ベンガラを使用していると思われる。朱壺という呼称は、現代のものであり、近世期の呼称は不明とされている。本体が櫨、糸車とカルコが紫檀でできていると考えられている。墨さしのうち1点に「坂田岩」と線刻がある。

罫引は、小型のものである。鋸は横挽き用が3点、縦挽き用が1点、曲線挽き用が1点、その他1点である。その他とは、渡邊晶が紀要論文で考察の対象外としたものである。いずれも造作材用の比較的小型の

もので、構造材を加工する大型の鋸は含まれていない。

鉋は、平面用の「四寸」の鉋と「短台」<sup>みじかだい</sup>、溝切用の「底鉋」と「ヒブクラ」、曲面用の「外丸鉋」2点、角面用の「面取」の計7点の台鉋である。

錐は、開ける孔の大きさの異なるものが3点ある。

玄翁・槌の5点も、用途別に種類が整えられている。いわゆる「中玄能」がない。

最も種類が豊富な鑿は、加工する部材や用途に合わせて、槌で叩いて使用する「叩き鑿」と、手で押して使用する「突き鑿」があり、「叩き鑿」には柄の端に補強のための金属製の環がはめられている。「叩き鑿」も「突き鑿」も、それぞれ用途によって刃先が異なっているが、おおよそ叩き鑿は主要構造部の接合部の加工に、突き鑿は造作材の接合部の加工や、木栓や釘穴の加工などより細かい部位に使用される傾向がある。

雑道具とは、刀子2点と道具箱を分類している。

桃山天満宮の奉納大工道具の特徴は、大きく3点ある。①鉦など一部の道具を欠くものの近世の大工道具の標準編成をほぼ

網羅している。②鋸、鑿、鉋の種類が多く、なかでも鑿は刃幅や形が違うものが各種あり、建具用や彫刻用の道具も含まれていることから、それらも当時の大工が担っていたことがわかる。③柄に紫檀・黒檀などの銘木を使った鑿や罫引、台の幅が13センチメートルもある幅広の鉋は、家大工の道具には見られない道具であり、社寺建築のための道具であるといえる<sup>26)</sup>。

### 3. 桃山天満宮の来歴について

次に、伝来の経緯を確認するため、桃山天満宮の来歴について追ってみたい。桃山天満宮については、宝永2年(1705)刊『山城名勝志』に、

- 藏光菴 號龍幡山 貞和年中建立開基  
海印和尚安光明院碑 爲天龍寺末派  
元在伏見 豊臣秀吉公築伏見城 時移  
臨川寺東 委載于紀伊郡之卷<sup>27)</sup>
- 藏光菴 元在伏見隣光明寺 豊  
臣秀吉公遷サル嵯峨臨川寺ノ東ニ又載ス  
葛野ノ郡ノ卷ニ今御香ノ宮ノ東二町許有リ

天満社 是藏光菴 鎮守云<sup>28)</sup>  
とみえるのが、管見の限り初出である。その後、天明7年(1787)刊『拾遺都名所図会』に、

桃山天満宮 龍雲寺の西にあり 祭神  
渡唐天神の影像を鎮め奉る 明徳の頃  
沙門月溪靈夢を蒙り 其後應永元年に神  
影を同門の僧忠菴より 授り龍幡山藏  
光菴の鎮守とす 文禄三年伏見城を築  
き給ふ時藏光庵は嵯峨臨川寺のひがし  
にうつす 天神の御社はこゝに残りて  
俗に山の天神と称す  
例祭は六月廿五日<sup>29)</sup>

とある。つまり、桃山天満宮は、貞和年中(1345～1349)に創建と伝える龍幡山藏光庵の鎮守社として、応永年間(1394～1427)に天満社として創建された。そして、藏光庵は伏見城築城に際し、文禄3年(1595)に嵯峨の臨川寺の東に移転したが、鎮守は残り「山の天神」として知られたという。その当時の様子は、安永9年(1780)刊『都名所図会』巻之四の「宇治見山 龍雲寺」の挿図(図1)に描かれて

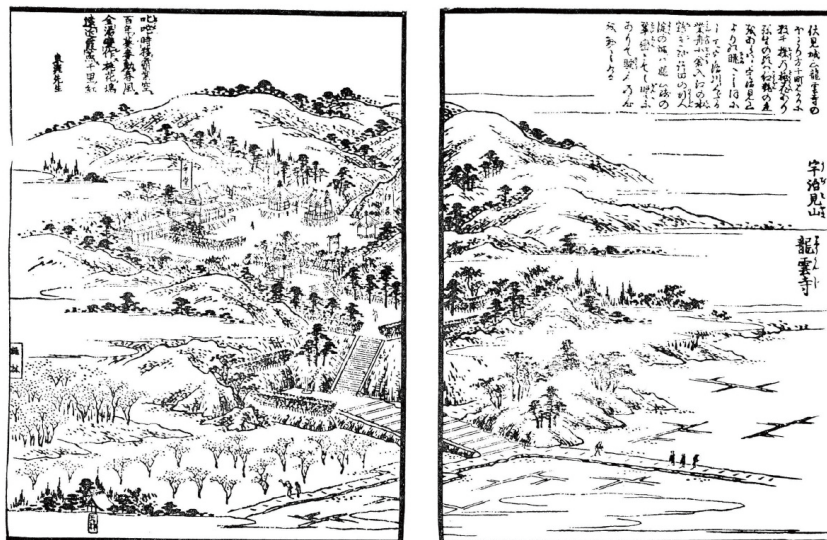


図1 天明7年(1787)刊『拾遺都名所図会』より「龍雲寺」



図2 同「山の天神」拡大

いる。画面左下の小さな流造の社殿がそれで、「天神」と示されている（図2）。この位置については、幕末の「改正 京町御絵図 細見大成洛中洛外町々小名全」<sup>30)</sup>でも御香宮と龍雲寺の間に「山ノ天神」として示されていることとも符合する。

明治16年（1883）の『紀伊郡神社明細帳』<sup>31)</sup>には、「天満宮社」として立項され、次のように記載されている。

京都府管下山城國紀伊郡新七町  
村社

天満宮社

一祭神

菅原神

一由緒

当社ハ應永廿九年壬寅六月廿五日  
此処へ鎮座。伏見九郷ノ時、石井  
庄ノ天満宮社也。文禄年中、太閤  
秀吉公伏見御在城之時、加賀屋敷  
ニ被成則前田肥後守利家建立之  
由。境内東西二十二間南北三十間、  
宮守永昌軒。其后、天保十二年新  
七町へ引移ス。

一社殿 梁行 二間

桁行 壱間二尺七寸

一前拝 方 壱間半

一社務所 二百五十六坪五合八分

官有地第一種

一境内神社 三社（以下略）

ここでも、応永年間の創立とあるが、伏見九郷のひとつ石井庄の天満宮社であったこと、豊臣秀吉が伏見城にあった頃、加賀屋敷すなわち前田利家邸にあったことが記されている。

小さな流造の社殿から、現在の流造の本殿に対して向背にあたる切妻の縦の棟があり、拝殿にかぶさるという形式になったのは、天保12年（1841）に新七町に移転した際のものである。新七町とは、大手筋通の両側町で、観音寺町の南に接していたが、昭和4年（1929）に観音寺町に合併した地域である<sup>32)</sup>。

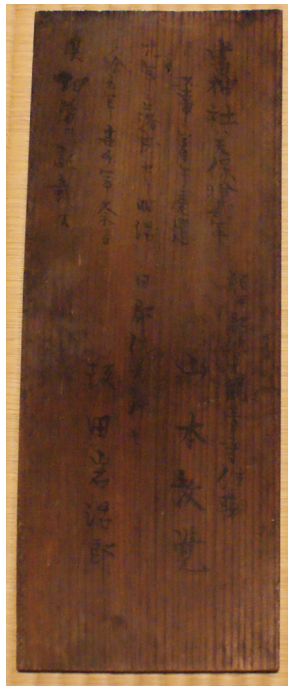
桃山天満宮の奉納大工道具は、この天保の移転の際に、社殿が改まり、その竣工を記念して奉納されたものであると伝えられているが、先述の明治16年調『紀伊郡神社明細帳』（1883）「天満宮社」の項「天保十二年新七町へ引移ス」と、明治39年（1906）建立の記念碑<sup>33)</sup>の碑文「廿年間一日の如く共に勞き、天保十二年、此所に瑞の神殿美しく造竟遷し奉し」の2つの史料が根拠となっていたと考えられる。

ところが、この度の文化財調査に関連して、桃山天満宮が平成29年（2017）12月14日に棟札等の調査を実施し、本殿の天井裏より7点の棟札・置札が発見された（表3）。

そのなかで、明治35年（1902）に納められた置札<sup>34)</sup>は、天保の再建の経緯を記し、功勞を顕彰したものであり、碑文よりも四年早い史料である。そこには、「天保拾貳年ヨリ工事ニ着手慶應元年ニ落成セリ」とあり、天保12年（1841）は着手の年であり、それから24年の工期を経て、慶応

表3 桃山天満宮本殿天井裏の置札一覧

|              |           |          |              |            |            |        |
|--------------|-----------|----------|--------------|------------|------------|--------|
| 7            | 6         | 5        | 4            | 3          | 2          | 1      |
| 昭和四十四年七月二十八日 | 昭和九年五月三十日 | 昭和三年二月   | 明治三十五年六月二十五日 | 明治三十五年六月中旬 | 明治三十五年六月中旬 | 明治三十五年 |
| 上棟祭執行        | 上棟式       | 御屋根葺替大修理 | 本社屋根葺替       | 天満宮檜皮屋根葺替  | 天満宮檜皮屋根葺替  | 慶応二年落成 |



當神社八天保拾貳年  
ヨリ工事ニ着手慶應  
元年ニ落成セリ明治  
三拾五年老千年祭ニ付  
其功勞ヲ記載ス

紀伊郡伏見観音寺住職  
山本 教 覚  
同郡伏見新七  
阪田 岩 治 郎

明治35年（1902）桃山天満宮本殿天井裏置札  
（表3の1）

元年（1865）に完成したとしている。年代的には、『紀伊郡神社明細帳』が早いものの編纂物であること、記念碑は20年の工期が記載されているものの着手年が明らかでないことを考え合わせると、この置札の明確な記載は、記念碑が示す工期ともほぼ合致し、信憑性が高い<sup>35)</sup>。

これにより、桃山天満宮の奉納大工道具は、天保の再建に使用された道具であるものの、その奉納時期は天保12年（1841）ではなく、慶応元年（1865）と考えられる。

新七町（観音寺町）に鎮座した頃の桃山天満宮は、伏見の寺子屋の師匠とその門弟たちの信仰が篤く、毎年6月25日に天神祭が賑わったという<sup>36)</sup>。

その後の桃山天満宮であるが、明治35年（1902）、昭和3年（1928）に檜皮の葺替が行われ<sup>37)</sup>、昭和9年（1934）、昭和

44年（1969）には大規模修繕が行われていたことがわかる<sup>38)</sup>。そして、昭和44年（1969）11月、近鉄京都線の桃山御陵前駅のバスロータリー建設などのため、御香宮神社の境内に移築され、現在に至る<sup>39)</sup>。

#### 4. 阪田岩次郎について

大工の阪田岩治郎については、作例や史料は確認されていない。奉納された大工道具の墨書では「坂田」とあるが、先述の明治35年（1902）桃山天満宮天井裏置札<sup>40)</sup>には、「同郡伏見新七 阪田岩治郎」とあり、明治39年（1906）の碑文<sup>41)</sup>も共通する。「阪田」「坂田」については、後世には阪田が一般に通用していること、「岩治郎」「岩次郎」については、置札を根拠として、ここでは「阪田岩治郎」とした。

阪田岩治郎により奉納された道具から阪

田は宮大工であったと推定されてきたが<sup>42)</sup>、阪田が町家建築に携わっていなかったとは断定できない。

近世期において、畿内(山城国, 大和国, 摂津国, 河内国, 和泉国)と近江国の六か国の大工は、全て中井家による支配を受けていた<sup>43)</sup>。御所や城郭の造営では、中世以来の「京十人棟梁」, 特に弁慶家, 石上家, 矢倉家が活躍し, 中井家の大工支配の一翼を担ったとされるが, 大坂, 堺, 伏見, 尼崎などのいわゆる都市大工, そして農業と兼業している農村大工にも, その支配は及んでいたとされる。

伏見の大工の状況については, 享保期(1716~1736)の『伏見大概記』には, 伏見に大工が84人(内, 直違橋組13人, 京橋組41人)いたことが記され, 安永9年(1780)の『新彫伏見鑑』には, 大工仲間が三組あり, 上組の年寄が「直違橋十丁め 五郎兵へ」, 中組が「竹中町 喜八」, 下組が「新町七丁め 半兵へ」であるとわかる<sup>44)</sup>。

下組の年寄が居住していた新町七丁目が新町通という南北の通りに面した町であるのに対し, 阪田が居住していた新七町は大手筋に面した横町である。この新七町は桃山天満宮が鎮座していた観音寺町に隣接しており, 昭和4年(1929)に観音寺町に併合され, 町名としては現存していない<sup>45)</sup>。この新七町の町名の由来は未詳であるが, もし新町七丁目に所縁があるとすれば, 阪田は下組の流れを組む大工の可能性もあるのではないだろうか。

## 5. 銘文などについて

桃山天満宮の奉納大工道具のうち, 鋸, 鑿, 雑道具には, 銘文があるものも見られ, おそらくは伏見の職人によるものと思われるが, 詳らかでない。

鋸のうち, 横挽鋸(「史料1 指定品一覽」通番8)に「谷口清右衛門作」, 小鋸(同9)に「西川伊兵衛」, 畔挽鋸(同12)に「清八」, 鴨居挽鋸(同13)に「谷定喜兵衛」と銘がある。伏見はもともと鍛冶職人が多く, 特に伏見鋸が有名だったという<sup>46)</sup>。谷口清兵衛家は15~16代続いた職人で, 昭和30年(1955)頃までは鋸を製造していた。その分家筋にあたる谷口清三郎家の看板は, 今も下板橋通にかかっている。「谷口清右衛門」「清八」「谷定喜兵衛」は, 谷口清兵衛家の流れを組む職人の手によるものと考えられそうである<sup>47)</sup>。



「横挽鋸(片刃・コフクラ型)」の銘  
(通番8, 竹中A-11)

鉋は, 最も幅広の平鉋(「史料1 指定品一覽」通番15)だけに, 「勘兵衛」の明がある。勘兵衛は, 江戸時代に活躍した関西

の鉋鍛冶の名工である<sup>48)</sup>。

突鑿（「史料1 指定品一覧」35・47）の2本に「宗右門」、突鑿（同37）に「与一郎」の銘がある。さらに突鑿（同29・32・39・53）と叩鑿（同36）の計5本には「清一郎」の銘がある。このうち29は「清」以下の文字は判読が難しいが、印影が共通することから判断した。

鞆には、多くの墨書が残されているが、判読できない文字も多い。突鑿 鞆（「史料1 指定品一覧」附3）、叩鑿 鞆（同附4）、突鑿 鞆（同附5）、突鑿 鞆（同附7）、突鑿 鞆（同附8）について、現段階で判明している範囲で、別記しておく（史料2 鞆の墨書）。



「平鉋」の銘  
(通番15, 竹中A-3)



「突鑿(13)」の銘  
(通番47, 竹中D-7)



「突鑿(10)」の銘  
(通番37, 竹中C-12)



「[突鑿]」の銘  
(通番39, 竹中C-14)

## むすびに

文化財に指定するにあたり、従来からのさまざまな呼称を再検討し、所有者、審議会委員らの意見を調整して、文化財の指定名称を決めた。要素としては、「伏見」の「宮大工」である「阪田岩次郎」が「桃山天満宮」に「奉納」した「大工道具」である。このうち、阪田岩次郎が宮大工專業だったかは詳らかでないため、文化財名称に「宮大工」の語は使用しなかった。また、阪田岩次郎についても表記にブレがあるため使用せず、むしろ所有者を示す「桃山天満宮」を採用することにした。神社の正式名称は「天満宮社」であるが、地名を冠した通称を採用することとしたため、「伏見」の語は採用しなかった。「奉納」の語をいれることで、阪田岩次郎の存在を示すとともに、奉納物として大切にされてきたという歴史性を表した。

桃山天満宮の奉納大工道具は、当時の大工道具がほぼ網羅されており、儀式用ではなく実際に社寺建築に使用されていたものとして、また使用されていた年代が明らかかなものとして貴重である。あわせて、鞆は、本品に合わせて制作されたもので、判読が難しいものの墨書が残っており、附として保存をはかるべきである。これらの文化財が、これからも適切に保存され、所有者や地域の人々、博物館や研究者らに、さまざまな形で活用されることを期待している。



註

- 1) 宗教法人天満宮社，京都市伏見区御香宮門前町173
- 2) 宗教法人御香宮神社，京都市伏見区御香宮門前町174
- 3) 中村雄三『図説 日本木工具史』（新生社，1968年）には、「天保10（1839）年，観音寺の僧教覚が再興を計画し，篤信家本谷市造の援助によって現在地に遷され，同12年，伏見の大工阪田岩次郎が現社殿を造営したものと伝えられている。（中略）かれが造営に用いたと伝えられる愛用の大工道具一式を当社が伝えているので，かれの技術的手腕の一斑を，それによって知ることができる。」と紹介している。
- 4) 大工道具の箱蓋裏の貼付文書に  
昭和三十九年七月廿一日午前  
日本大学理工学部建築科  
小林研究室  
中村雄三氏  
各時代木匠工具研究の為  
之を写真に撮る  
と記されている。
- 5) 註3，中村前掲書。
- 6) 公益財団法人竹中大工道具館。当時は，神戸市中央区中山手通4-18-25に所在していたが，平成26年（2014）に神戸市中央区熊内町7に移転した。旧地は収蔵庫となっている。
- 7) 大工道具の箱蓋裏の貼付文書に  
自昭和五十七年九月二日  
至 同年同月廿四日  
竹中大工道具館 嘉来氏  
資料目録作成・手入・鞆新調  
と記されている。嘉来氏とは，副館長を務めた嘉来國夫である。
- 8) 竹中大工道具館の植村昌子学芸員のご教示による。
- 9) 竹中大工道具館編・発行『竹中大工道具館10年史 1984-1994』（1995年）。なお，10年史の23頁に，「天保時代の大工道具」として桃山天満宮の奉納大工道具の写真が掲載されている。
- 10) 渡邊晶による論文は以下の7編。①「近世の建築用の錐について一伝世品をはじめとした関連資料の調査報告」（『竹中大工道具館研究紀要』2号，1990年），②「近世の建築用の槌について一伝世品をはじめとした関連資料の調査報告 その2」（『竹中大工道具館研究紀要』3号，1991年），③「近世の建築用の鉋について一伝世品をはじめとした関連資料の調査報告 その3」（『竹中大工道具館研究紀要』5号，1993年），④「近世の建築用の鑿について一伝世品をはじめとした関連資料の調査報告 その4」（『竹中大工道具館研究紀要』6号，1994年），⑤「近世の建築用の鋸について一伝世品をはじめとした関連資料の調査報告 その5」（『竹中大工道具館研究紀要』7号，1995年），⑥「近世の建築用墨掛道具について一伝世品をはじめとした関連資料の調査報告 その6」（『竹中大工道具館研究紀要』8号，1996年），⑦「近世の建築用刀子系道具について一伝世品をはじめとした関連資料の調査報告 その7」（『竹中大工道具館研究紀要』9号，1997年）。なお，渡邊は「桃山天満宮で保管されてきた大工道具一式」「桃山天満宮伝世鑿」などといった表現をしている。また，大工については「坂田岩次郎」と表記している。
- 11) 国立歴史民俗博物館編・発行『失われゆく番匠の道具と儀式』（1996年）。ここでは「坂田岩次郎奉納大工道具」と表現をしている。
- 12) 国立歴史民俗博物館編・発行『オランダへわたった大工道具』（2000年）。ここでも「坂田岩次郎奉納大工道具」と表現をしているが，収載されている渡邊晶による論文「近世後半における大工道具について」では，「桃山天満宮で保管されてきた大工道具一式」と表現している。なお，本展は巡回展であり，出島和蘭商館跡復原建物・一番蔵，竹中大工道具館，横浜市技能文化会館でも開催された。
- 13) 安田泰幸画・竹中大工道具館文『水彩画で綴る大工道具物語—竹中大工道具館収蔵品』（朝倉書店，2009年）。
- 14) 平成27年（2015）3月5日，桃山天満宮宮

- 司の三木善則の案内で、京都市文化財保護審議会委員・京都造形芸術大学教授の伊達仁美、京都市文化財保護課の村上忠喜、同福持昌之。
- 15) 平成29年(2017)10月2日、伊達仁美、京都造形芸術大学学生の清彩華、福持昌之。同10月31日、伊達仁美、京都造形芸術大学大学院生の今村菜、同佐々木麻衣、清彩華、福持昌之。
- 16) 平成30年(2018)1月19日、諮問。同年2月21日、答申。
- 17) 平成30年(2018)3月31日付で指定。
- 18) 黒川一夫『わが国大工の工作技術に関する研究』(労働科学研究所, 1949年)。のちに、村松貞次郎の監修を得て、同書名で復刻された(労働科学研究所, 1984年)。
- 19) 国宝「東照宮 本殿、石の間及び拝殿」の附である「箱入大工道具(一具)」、いわゆる「日光東照宮儀式用道具」(栃木県)。
- 20) 個人蔵。和歌山県の有形民俗文化財に指定されている「宮大工道具(儀式用)」である。これは熊野本宮大社の宮大工に伝来するもので、昭和42年(1967)4月14日指定された。また、熊野速玉大社の宮大工に伝来する大工道具も「新始儀式用具」として県の有形民俗文化財に指定されている(昭和44年4月23日)。詳しくは『熊野三山民俗文化財調査報告書・資料編』(和歌山県教育委員会, 2013年)を参照のこと。
- 21) その他、指定文化財として知られる大工道具として、法隆寺伝来の「鋸(一挺)」(東京都)が重要文化財(美術工芸品)がある。また、群として伝来するものとしては、重要文化財(美術工芸品)の「大工頭中井家関係資料(5195点)」(大阪府)、「船大工樗木家関係資料(575点)」(鹿児島県)があり、大工道具が一部含まれている。
- 22) 個人蔵。山口県防府市の有形民俗文化財に指定されている(平成18年3月28日)。桃山天満宮の奉納大工道具に比べて、斧・鉾が加わっている点が特色である。
- 23) 個人蔵。奈良市指定文化財(歴史資料)(平成26年3月14日指定)。大工道具のほか、文書記録類26点、図面類62点も含まれている。
- 24) 大工道具(群)としての重要有形民俗文化財として、次のものが知られる。
- ・「船大工用具及び磯舟 附 山出し用具 模型和船 船形絵馬」968点(新潟県)
  - ・「瀬戸内海の船図及び船大工用具」2813点(香川県)
  - ・「近江甲賀の前挽鋸製造用具及び製品」1274点 附418点(滋賀県)
- 大工道具(群)としての国登録有形民俗文化財は以下の通りである。
- ・「諏訪湖の漁撈用具及び舟大工用具」904点(長野県)
  - ・「玄界灘の漁撈用具及び船大工用具」1309点(福岡県)
  - ・「播州三木の鍛冶用具と製品」624点(兵庫県)
- また、東日本最古の大工道具セットとして御殿・二之宮遺跡出土(静岡県磐田市)のものが知られる。
- 25) 分類については、中村雄三は『図説 日本木工具史』(註3)で「墨斗・墨芯・曲尺・鋸・鉋・盤・きり・木槌・金槌など」とし、後に渡邊晶は『竹中大工道具館研究紀要』(註10の⑥)で「墨掛道具・鋸・鉋・錐・槌・鑿・刀子系道具」とした。また、渡邊も寄稿している『オランダへわたった大工道具』では「朱墨用スミツボ・スミサシ・カネジャク・ケビキ・ノコギリ類・カンナ類・キリ類・ツチ類・ノミ類・コガタナ」とある。竹中大工道具館が編集した『水彩画で綴る大工道具物語』では「墨壺・墨芯・曲尺・罫引・鋸・鉋・錐・木槌・金槌・鑿」とし、関係者や竹中大工道具館の分類法にブレがみられる。ここでは、竹中大工道具館の写真台帳(制作年代は不明)の分類が、竹中大工道具館で最新かつ現行の分類であると考えられることと、それが労働科学研究所による大工道具の標準編成に使用している分類表現に近いことから、それを採用する。
- 26) これらの指摘は、註10、渡邊前掲書によってなされている。

- 27) 『山城名勝志』 卷十六 紀伊郡部
- 28) 『山城名勝志』 卷九 葛野郡部
- 29) 『拾遺都名所図会』 卷四
- 30) 天保2年(1832)刊, 慶應4年(1868)再刻。『新修 京都叢書』第23巻別冊(古地図集)を参照。
- 31) 京都府立京都学・歴史館架蔵。
- 32) 『日本歴史地名大系 第27巻 京都市の地名』(平凡社, 1979年)の「観音寺町」の項に, 「昭和四年(一九二九)に大手筋通に面していた横町の新七町を合併」とある。
- 33) 境内に建つ記念碑。天保年間の再建を顕彰するために, その時の大工である阪田岩次郎の子息にあたる阪田忠兵衛が発起人となり, 明治39年(1906)に建てられたものである。

[南面]

此の天満宮社は応永のむかし, 伏見石井庄に鎮座豊公桃山城を造營み諸藩邸を造らしめらるゝ, 加賀前田侯邸内なるは遠祖の縁に依て, 祠を改造, 祭祀も荘嚴に舉行れしを, 時世變遷, さしも殷盛なりし桃山城は荒さる。あはれ祠宇も葎の中に朽果なむ状なるを, 観音寺住職山本教覺, 工匠阪田岩次郎は赤心を振起し, 教覺は資金を募集, 篤志者本谷市造之を賛げ, 岩次郎は工事を負擔, 廿年間一日の如く共に勞き, 天保十二年, 此所に瑞の神殿美しく造竟遷し奉しは最も愛き事なりけり。然を許々多の年月を経て甚く破損しかは, 社掌矢野弟一郎有志の人々と謀り修理ひ奉り。又社務所, 社標, 玉垣等新設, 明治三十五年六月千年の大祭仕奉ぬ。如此社頭の光輝のます隨に, 神威もいよゝ益曜き渡るらん。今般, 岩次郎男忠兵衛發起て, 此事跡を碑になしけるになん

明治三十九年三月 鳥羽重晴謹識

[北面]

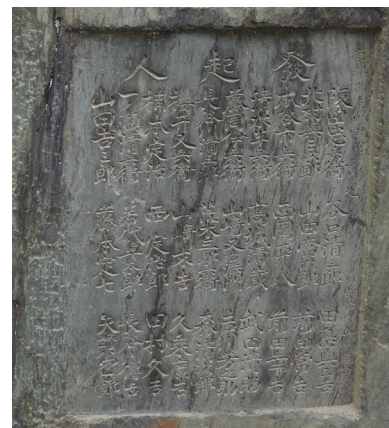
京都御幸町六角 北 宇治郡山科字八軒

|          |       |       |
|----------|-------|-------|
| 阪田忠兵衛    | 谷口清三郎 | 田島與三吉 |
| 發 北村與三次郎 | 山田常次郎 | 前田常吉  |
| 本谷市兵衛    | 西岡卯八  | 前田幸吉  |
| 清水半兵衛    | 高城清藏  | 武田清助  |

|   |        |        |       |
|---|--------|--------|-------|
| 起 | 藤岡伊兵衛  | 山崎又右衛門 | 吉川芳之助 |
|   | 長谷川清三郎 | 荒木三郎兵衛 | 森清次郎  |
|   | 櫻井又兵衛  | 山崎末吉   | 久乘廣吉  |
| 人 | 楠本定治   | 西定治郎   | 田村久吉  |
|   | 一ノ瀬清兵衛 | 若代隼太郎  | 長谷川傳吉 |
|   | 山田吉三郎  | 藤本定七   | 矢野弟一郎 |
|   |        |        | 石工 石徳 |



明治39年(1906)建立の記念碑(南面)



同(北面, 部分)

- 34) 明治35年(1902)桃山天満宮1000年祭に際して, 山本教覺と阪田岩次郎の功勞を後世に伝えるために天井裏に置札が設置された。
- 35) 註3, 中村前掲書では, 出典は明らかでないものの「天保10年(1839), 観音寺の僧教覺が再興を計画し, 篤信家本谷市造の援助によって現在地に遷され, 同12年, 伏見の大工

- 阪田岩次郎が現社殿を造営したものと伝えられている。」とし、天保10年から2年かけて完成したとする。これはおそらく、記念碑の20年からの誤記であろう。
- 36) 『明治二十年 町村沿革取調書』(京都府立京都学・歴史館蔵)には、「六月廿五日ハ天神祭りト云アリ。伏見ニ手跡指南ヲ業トスルモノ是ヲ寺子屋ト云。本日門弟ヲ集メ、昼ハ御酒赤飯ヲ与ヘ終日戯レ遊ハシム。七ツ時ニハ銘々帰宅シ、夕刻ヨリ浴衣ヲ着シ再ヒ来ル緋縮緬、浅黄縮緬等ノ襷ヲ掛ケ、梅鉢紋付ノ小挑灯ヲ持テ聲ヲ揚テ行ク。師家ヨリ御迎ヒ高張挑灯壺ヲ子供ノ間ニ挟ム。師道ハ箱挑灯ヲ持タセ袴羽織ヲ着シ跡ヲ押ヘテ行ク。山ノ天神、竹中町天神ヘ詣スル為ナリ。時ニ廿三日ヨリ師家門人ノ奉納書ヲ集メ右両天神ヘ奉納ス。」とある。
- 37) 明治35年(1902)棟札, 昭和3年(1928)棟札
- 38) 昭和9年(1934)棟札, 昭和44年(1969)棟札
- 39) 大正10年(1921)に和合会が御香宮神社境内に建てた碑に、「この神苑の地はもと當社の境内にして、徳川氏の世を通して神宮寺なる大善院正徳院金藏院の在りし迹なり。明治維新の頃上地し後堀内鬻の所在たりしが、明治三十九年その跡を購ひ、茲に舊地に復し神苑擴張の端を開きたり。盖し關係諸氏の熱誠と和合組の功績とに因るものなり。今や境域直に御陵道に接し、公衆の便益少からず。寔に神慮を顯揚せるものと謂ふべし。這般有志相議りて、舊地回復を記念せんとするに當り、乃ちこれが沿革を略叙すと云爾。大正十年十月 御香宮神社社司 三木善三誌」とある。桃山天満宮はこの神苑に移築された。
- 40) 註31, 前掲書。
- 41) 註30, 前掲書。
- 42) 註3, 前掲書。
- 43) 北村文「京都大工頭中井家に関する一考察」(『立命館大学学生論集』11号, 2005)では、「中井家の命令とあらば、町家普請を一時中絶してでも御所に向かわなければならなかった」としている。
- 44) 『伏見大概記』『新彫伏見鑑』は、新撰京都叢書刊行会編『新撰京都叢書』第5巻(臨川書店, 1968)に収録されている。
- 45) 註32参照のこと。
- 46) 竹中大工道具館「道具よもやま話 消えた道具の町・伏見」を参照。初出は『竹中工務店社報』1983年。現在、竹中大工道具館ウェブサイト(https://www.dougukan.jp/)に再録されており、閲覧できる。
- 47) 山本鉋製作所(兵庫県三木市)の収集資料に、「谷口清右衛門」銘の縦挽鋸がある。山本鉋製作所のウェブサイト「鍛冶屋が集めた鉄の古道具—大工道具」で公開されている。(http://yamamotokanna.sakura.ne.jp/furudaiku.html)
- 48) 註10の③, 渡邊前掲書, 土田一郎『日本の伝統工具』鹿島出版会, 1989年。

本稿を、平成29年(2017年)3月に逝去された御香宮神社・天満宮社宮司の三木善則様に捧げるとともに、この大工道具の詳細な調査をされ評価を位置づけられた渡邊晶様に敬意を表し、調査にご協力いただきました竹中大工道具館の植村昌子様、御香宮神社の皆様、そして審議会でご指導いただいた京都造形芸術大学の伊達仁美先生に厚く感謝の意を表します。




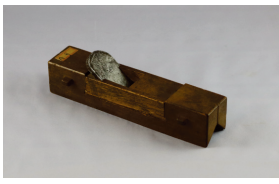
史料1 指定品一覧

| 通番 | 分類       | 名称<br>(写真台帳) | 参考名称<br>(手書きリスト) | 写真   | 備考   |
|----|----------|--------------|------------------|--|--|
| 1  | 墨掛道具・定規類 | 朱壺           | 墨壺 (朱)           |     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：A-2</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』8号 (伝世墨掛道具その1)</li> <li>・最大長163m/m</li> <li>・木部の材質は本体がケヤキ、糸車とカルコがシタンと思われる</li> </ul>          |
| 2  |          | 曲尺(1)        | 曲尺 一尺四寸          |     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：A-4</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』8号 (伝世墨掛道具その6)</li> <li>・最大長313m/m</li> <li>・玉鋼製</li> </ul>                                   |
| 3  |          | 曲尺(2)        | 曲尺 一尺六寸          |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：A-6</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』8号 (伝世墨掛道具その5)</li> <li>・最大長500m/m</li> <li>・玉鋼製</li> </ul>                                   |
| 4  |          | 墨さし(1)       | 墨差 (大)           |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：B-8</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』8号 (伝世墨掛道具その2)</li> <li>・最大長260m/m</li> <li>・竹製</li> <li>・墨が付着</li> <li>・線刻「や 坂田岩」</li> </ul> |
| 5  |          | 墨さし(朱)       | 墨差 (朱)           |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：B-9</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』8号 (伝世墨掛道具その4)</li> <li>・最大長235m/m</li> <li>・竹製</li> <li>・朱墨が付着</li> </ul>                    |
| 6  |          | 墨さし(2)       | 墨差 (小)           |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：B-10</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』8号 (伝世墨掛道具その3)</li> <li>・最大長229m/m</li> <li>・竹製</li> <li>・墨が付着</li> <li>・線刻「秀治吉」</li> </ul>  |
| 7  |          | 罫引           | 罫引               | 扇形毛引   |   |

福持 昌之 『桃山天満宮の奉納大工道具』

| 通番 | 分類 | 名称<br>(写真台帳)      | 参考名称<br>(手書きリスト) | 写真  | 備考  |
|----|----|-------------------|------------------|---|---|
| 8  | 鋸  | 横挽鋸(片刃・コ<br>フクラ型) | 横挽鋸 一尺           |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：A-11</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』7号<br/>(伝世鋸その1)</li> <li>・最大長693m/m</li> <li>・銘「■■/谷口清右衛門作(印)」</li> </ul>   |
| 附1 |    |                   | 同上カバー            |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：A-11 α</li> <li>・平成29年10月31日調査<br/>(京都造形芸術大学 伊達仁美教授<br/>京都造形芸術大学大学院 今村栞<br/>京都造形芸術大学大学院 佐々木麻衣<br/>京都造形芸術大学3回 清彩華<br/>京都市文化財保護課 福持昌之)</li> <li>・最大長435m/m、幅38m/m、厚11m/m</li> </ul>         |
| 9  |    | 小鋸                | 細工小鋸             |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：B-2</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』7号<br/>(伝世鋸その4)</li> <li>・最大長261m/m</li> <li>・銘「西川伊兵衛」</li> </ul>  |
| 10 |    | 挽廻し鋸              | 引廻し              |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：B-3</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』7号<br/>(伝世鋸その5)</li> <li>・最大長380m/m</li> </ul>   |
| 11 |    | 横挽鋸(片刃・先<br>丸)    | 横挽片刃鋸 八寸         |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：B-4</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』考察無</li> <li>・平成30年2月9日調査<br/>(竹中大工道具館 植村昌子学芸員)</li> <li>・全長524 m/m、鋸身長さ262 m/m<br/>柄長さ264 m/m、歯道長さ224m/m<br/>鋸身幅先部分66m/m、柄尻断面の<br/>長径27m/m・短形18m/m</li> </ul> |
| 附2 |    |                   | 同上カバー            |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：B-4 α</li> <li>・平成29年10月31日調査<br/>(京都造形芸術大学 伊達仁美教授<br/>京都造形芸術大学大学院 今村栞<br/>京都造形芸術大学大学院 佐々木麻衣<br/>京都造形芸術大学3回 清彩華<br/>京都市文化財保護課 福持昌之)</li> <li>・最大長296m/m、幅23m/m、厚9m/m</li> </ul>           |
| 12 |    | 畔挽鋸               | 鴨居挽鋸 (横挽)<br>三寸  |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：B-5</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』7号<br/>(伝世鋸その2)</li> <li>・最大長367m/m</li> <li>・銘「清八」</li> </ul>   |
| 13 |    | 鴨居挽鋸              | 鴨居挽鋸 (縦挽)<br>三寸  |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：B-6</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』7号<br/>(伝世鋸その3)</li> <li>・最大長353m/m</li> <li>・銘「谷定喜兵衛」</li> </ul>  |

福持 昌之 『桃山天満宮の奉納大工道具』

| 通番 | 分類 | 名称<br>(写真台帳) | 参考名称<br>(手書きリスト) | 写真  | 備考  |
|----|----|--------------|------------------|---|---|
| 14 |    | 大鉋           | 大鉋 四寸            |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：A-1</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』5号 (伝世鉋その1)</li> <li>・最大長348m/m</li> <li>・台の材種は赤ガシと思われる</li> </ul>                                     |
| 15 |    | 平鉋           | 手鉋 寸六            |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：A-3</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』5号 (伝世鉋その2)</li> <li>・最大長154m/m</li> <li>・台の材種はカシと思われる</li> <li>・銘「勘兵衛」<br/>勘兵衛は江戸時代の鉋鍛冶の名工</li> </ul> |
| 16 |    | ひぶくら鉋        | ひぶくら             |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：A-5</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』5号 (伝世鉋その7)</li> <li>・最大長103m/m</li> <li>・台の材種はカシと思われる</li> </ul>                                      |
| 17 | 鉋  | 外丸鉋 (1)      | 外丸鉋 一寸二分         |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：A-7</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』5号 (伝世鉋その4)</li> <li>・最大長149m/m</li> <li>・台の材種はカシと思われる</li> </ul>                                      |
| 18 |    | 底決り鉋         | 底取鉋 七分           |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：A-8</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』5号 (伝世鉋その6)</li> <li>・最大長252m/m</li> </ul>   |
| 19 |    | 面取り鉋-自由角面    | 自由角面 面取り鉋        |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：A-9</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』5号 (伝世鉋その5)</li> <li>・最大長188m/m</li> <li>・台の材種はカシと思われる。</li> <li>・墨書「萬/萬」「上/上」</li> </ul>              |
| 20 |    | 外丸鉋 (2)      | 外丸鉋 八分           |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：A-10</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』5号 (伝世鉋その3)</li> <li>・最大長260m/m</li> <li>・台の材種はカシと思われる</li> </ul>                                     |

福持 昌之 『桃山天満宮の奉納大工道具』

| 通番 | 分類   | 名称<br>(写真台帳) | 参考名称<br>(手書きリスト) | 写真  | 備考  |
|----|------|--------------|------------------|---|---|
| 21 |      | もじり          | もじり 四分           |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：C-7</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』2号 (奉納錐その3)</li> <li>・最大長349m/m</li> <li>・近現代のポルト錐と似た形状</li> <li>・柄は残されていない</li> </ul> |
| 22 | 錐    | 剣先錐          | 錐                |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：C-8</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』2号 (奉納錐その1)</li> <li>・最大長416.5m/m</li> <li>・柄の材種はスギと思われる</li> <li>・柄が八角形</li> </ul>    |
| 23 |      | 板錐           | 板錐               |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：C-9</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』2号 (奉納錐その2)</li> <li>・最大長500m/m</li> <li>・柄の材種はスギと思われる</li> </ul>                      |
| 24 |      | 小金槌          | 金槌               |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：B-11</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』3号 (伝世槌その3)</li> <li>・最大長251m/m</li> <li>・柄の材種はカシと思われる</li> </ul>                     |
| 25 |      | 木槌           | 木槌 (小)           |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：D-19</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』3号 (伝世槌その5)</li> <li>・最大長196m/m</li> <li>・柄がヒノキと思われる</li> </ul>                       |
| 26 | 玄翁・槌 | 木槌           | 木槌 (大)           |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：D-20</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』3号 (伝世槌その4)</li> <li>・最大長388m/m</li> <li>・材種は頭部も柄もカシと思われる</li> </ul>                  |
| 27 |      | 丸玄能          | 玄能 (大)           |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：D-21</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』3号 (伝世槌その1)</li> <li>・最大長289m/m</li> <li>・柄の材種はカシと思われる</li> </ul>                     |
| 28 |      | 角玄能          | 金槌 (大)           |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：D-22</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』3号 (伝世槌その2)</li> <li>・最大長345m/m</li> <li>・柄の材種はカシと思われる</li> </ul>                     |



福持 昌之 『桃山天満宮の奉納大工道具』

| 通番 | 分類 | 名称<br>(写真台帳) | 参考名称<br>(手書きリスト) | 写真   | 備考  |
|----|----|--------------|------------------|--|---|
| 29 | 鑿  | 突鑿(4)        | 突のみ 寸六           |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：C-1</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』6号 (伝世鑿その4)</li> <li>・最大長333m/m</li> <li>・柄の材種はコクタンと思われる</li> <li>・銘「(印) 清 [ ]」</li> </ul>                                 |
| 30 |    | 突鑿(6)        | 突のみ 寸五           |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：C-2</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』6号 (伝世鑿その8)</li> <li>・最大長381m/m</li> <li>・柄の材種はコクタンと思われる</li> </ul>  |
| 31 |    | 突鑿(14)       | 突のみ 四分五厘         |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：C-3</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』6号 (伝世鑿その20)</li> <li>・最大長402m/m</li> <li>・柄の材種はシタンと思われる</li> </ul>  |
| 32 |    | 突鑿(5)        | 突のみ 寸六           |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：C-4</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』6号 (伝世鑿その6)</li> <li>・最大長348m/m</li> <li>・柄の材種はシタンと思われる</li> <li>・銘「(印) 清一郎」</li> </ul>                                    |
| 33 |    | 鑿鑿           | 釘差しのみ 一尺         |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：C-5</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』6号 (伝世鑿その26)</li> <li>・最大長514m/m</li> <li>・柄の材種はカシと思われる</li> <li>・銘「し」</li> </ul>  |
| 34 |    | 突鑿(9)        | 突のみ 七分           |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：C-6</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』6号 (伝世鑿その16)</li> <li>・最大長341m/m</li> <li>・柄の材種はコクタンと思われる</li> </ul>   |
| 35 |    | 突鑿(12)       | 突のみ(平) 一寸        |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：C-10</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』6号 (伝世鑿その13)</li> <li>・最大長469m/m</li> <li>・柄の材種はコクタンと思われる</li> <li>・銘「(印) 宗右門」</li> </ul>                                 |
| 附3 |    |              | 同上 さや            |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年10月31日調査 (京都造形芸術大学 伊達仁美教授 京都造形芸術大学大学院 今村葉 京都造形芸術大学大学院 佐々木麻衣 京都造形芸術大学3回 清彩華 京都市文化財保護課 福持昌之)</li> <li>・最大長127m/m、幅50m/m</li> <li>・墨書「大坂北新地」等 (別掲)</li> </ul> |

福持 昌之 『桃山天満宮の奉納大工道具』

| 通番 | 分類 | 名称<br>(写真台帳) | 参考名称<br>(手書きリスト) | 写真  | 備考  |
|----|----|--------------|------------------|---|---|
| 36 | 鑿  | 叩き鑿(2)       | 叩のみ 八分           |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：C-11</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』6号 (伝世鑿その2)</li> <li>・最大長551m/m</li> <li>・柄の材種はカシと思われる</li> <li>・銘「(印) 清一郎」</li> </ul>  |
| 附4 |    |              | 同上 さや            |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年10月31日調査 (京都造形芸術大学 伊達仁美教授 京都造形芸術大学大学院 今村葉 京都造形芸術大学大学院 佐々木麻衣 京都造形芸術大学3回 清彩華 京都市文化財保護課 福持昌之)</li> <li>・最大長166m/m、幅45m/m、最大厚27m/m</li> <li>・墨書「善光寺講」等 (別掲)</li> </ul>   |
| 37 |    | 突鑿(10)       | 突のみ 寸三           |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：C-12</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』6号 (伝世鑿その11)</li> <li>・最大長506m/m</li> <li>・柄の材種はカシと思われる</li> <li>・銘「(印) 与一郎」</li> </ul>   |
| 附5 |    |              | 同上 さや            |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年10月31日調査 (京都造形芸術大学 伊達仁美教授 京都造形芸術大学大学院 今村葉 京都造形芸術大学大学院 佐々木麻衣 京都造形芸術大学3回 清彩華 京都市文化財保護課 福持昌之)</li> <li>・最大長146m/m、幅59m/m、最大厚27m/m</li> <li>・墨書「かしまの神の」等 (別掲)</li> </ul> |
| 38 |    | 叩き鑿(1)       | 叩のみ 一寸           |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：C-13</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』6号 (伝世鑿その1)</li> <li>・最大長507m/m</li> <li>・柄の材種はカシと思われる</li> </ul>   |
| 附6 |    |              | 同上 さや            |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年10月31日調査 (京都造形芸術大学 伊達仁美教授 京都造形芸術大学大学院 今村葉 京都造形芸術大学大学院 佐々木麻衣 京都造形芸術大学3回 清彩華 京都市文化財保護課 福持昌之)</li> <li>・最大長203m/m、幅49m/m、最大厚27m/m</li> <li>・墨書「小ひろ尺長」等 (別掲)</li> </ul>  |
| 39 |    | [突鑿]         | 突のみ 寸五           |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：C-14</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』6号 (伝世鑿その5)</li> <li>・最大長389m/m</li> <li>・柄の材種はシタンと思われる</li> <li>・銘「(印) 清一郎」</li> </ul>   |
| 附7 |    |              | 同上 さや            |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年10月31日調査 (京都造形芸術大学 伊達仁美教授 京都造形芸術大学大学院 今村葉 京都造形芸術大学大学院 佐々木麻衣 京都造形芸術大学3回 清彩華 京都市文化財保護課 福持昌之)</li> <li>・最大長70m/m、幅60m/m、最大厚20m/m</li> <li>・墨書「本亀/大ひろ」等 (別掲)</li> </ul>  |

福持 昌之 『桃山天満宮の奉納大工道具』

| 通番 | 分類 | 名称<br>(写真台帳) | 参考名称<br>(手書きリスト) | 写真   | 備考  |
|----|----|--------------|------------------|--|---|
| 40 | 鑿  | 突鑿(11)       | 平のみ 一寸           |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：C-15</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』6号 (伝世鑿その14)</li> <li>・最大長307m/m</li> <li>・柄の材種は不明だが広葉樹系</li> </ul>   |
| 41 |    | 突鑿(2)        | 突のみ 一寸二          |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：D-1</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』6号 (伝世鑿その12)</li> <li>・最大長264m/m</li> <li>・柄の材種はコクタンと思われる</li> </ul>   |
| 附8 |    |              | 同上 さや            |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年10月31日調査 (京都造形芸術大学 伊達仁美教授 京都造形芸術大学大学院 今村菜 京都造形芸術大学大学院 佐々木麻衣 京都造形芸術大学3回 清彩華 京都市文化財保護課 福持昌之)</li> <li>・最大長60m/m、幅45m/m、最大厚14m/m</li> <li>・墨書「稻荷大明神」等 (別掲)</li> </ul> |
| 42 |    | 突鑿(3)        | 突のみ 寸五           |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：D-2</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』6号 (伝世鑿その7)</li> <li>・最大長327m/m</li> <li>・柄の材種はコクタンと思われる</li> </ul>  |
| 附9 |    |              | 同上 さや            |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年10月31日調査 (京都造形芸術大学 伊達仁美教授 京都造形芸術大学大学院 今村菜 京都造形芸術大学大学院 佐々木麻衣 京都造形芸術大学3回 清彩華 京都市文化財保護課 福持昌之)</li> <li>・長43m/m、幅58m/m、最大厚13m/m</li> </ul>                             |
| 43 |    | 突鑿(8)        | 突のみ 寸三           |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：D-3</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』6号 (伝世鑿その10)</li> <li>・最大長324m/m</li> <li>・柄の材種はコクタンと思われる</li> </ul>   |
| 44 |    | 蟻鑿(1)        | 蟻のみ 八分           |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：D-4</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』6号 (伝世鑿その23)</li> <li>・最大長369m/m</li> <li>・柄の材種はシタンと思われる</li> </ul>  |
| 45 |    | 丸鑿(2)        | 壺のみ 七分           |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：D-5</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』6号 (伝世鑿その29)</li> <li>・最大長339m/m</li> <li>・柄の材質はヒノキと思われる</li> <li>・柄に「ケ」と読める彫文字がある</li> </ul>                                      |

福持 昌之 『桃山天満宮の奉納大工道具』

| 通番 | 分類 | 名称<br>(写真台帳) | 参考名称<br>(手書きリスト) | 写真   | 備考  |
|----|----|--------------|------------------|--|---|
| 46 | 鑿  | 突鑿(7)        | 突のみ 寸五           |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：D-6</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』6号(伝世鑿その9)</li> <li>・最大長174m/m</li> <li>・柄の材種はコクタンと思われる</li> </ul>                       |
| 47 |    | 突鑿(13)       | 平のみ 七分           |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：D-7</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』6号(伝世鑿その15)</li> <li>・最大長275m/m</li> <li>・柄の材種はコクタンと思われる</li> <li>・銘「(印) 宗右門」</li> </ul> |
| 48 |    | 叩き鑿(3)       | 叩のみ 二分           |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：D-8</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』6号(伝世鑿その3)</li> <li>・最大長238m/m</li> <li>・柄の材種はカシと思われる</li> </ul>                         |
| 49 |    | 鍔鑿           | こてのみ 四分五厘        |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：D-10</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』6号(伝世鑿その25)</li> <li>・最大長228m/m</li> <li>・柄の材種はコクタンと思われる</li> </ul>                     |
| 50 |    | 突鑿(18)       | 彫刻のみ 三分          |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：D-11</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』6号(伝世鑿その18)</li> <li>・最大長176m/m</li> <li>・柄の材種はコクタンと思われる</li> </ul>                     |
| 51 |    | 突鑿(19)       | 彫刻のみ 一分          |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：D-12</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』6号(伝世鑿その22)</li> <li>・最大長136m/m</li> <li>・柄の材種はシタンと思われる</li> </ul>                      |
| 52 |    | 丸鑿(1)        | 彫刻丸のみ 一分三厘       |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：D-13</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』6号(伝世鑿その28)</li> <li>・最大長208m/m</li> <li>・柄の材質はコクタンと思われる</li> </ul>                     |
| 53 |    | 突鑿(1)        | 叩丸のみ 三分          |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：D-14</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』6号(伝世鑿その27)</li> <li>・最大長204m/m</li> <li>・柄の材質はカシと思われる</li> <li>・銘「(印) 清一郎」</li> </ul>  |

福持 昌之 『桃山天満宮の奉納大工道具』

| 通番  | 分類  | 名称<br>(写真台帳)   | 参考名称<br>(手書きリスト) | 写真   | 備考  |
|-----|-----|----------------|------------------|--|---|
| 54  | 鑿   | 突鑿(17)         | 彫刻のみ 三分          |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：D-15</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』6号 (伝世鑿その19)</li> <li>・最大長274m/m</li> <li>・柄の材種はコクタンと思われる</li> </ul>  |
| 55  |     | 蟻鑿(2)<br>丸鑿(2) | 蟻のみ 四分           |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：D-16</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』6号 (伝世鑿その24)</li> <li>・最大長278m/m</li> <li>・柄の材種はシタンと思われる</li> </ul>   |
| 56  |     | 突鑿(16)         | 彫刻突のみ 五分         |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：D-17</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』6号 (伝世鑿その17)</li> <li>・最大長273m/m</li> <li>・柄の材種はシタンと思われる</li> </ul>   |
| 57  |     | 突鑿(15)         | 平突のみ 三分          |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：D-18</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』6号 (伝世鑿その21)</li> <li>・最大長470m/m</li> <li>・柄の材種はカシと思われる</li> </ul>  |
| 58  | 雑道具 | 刀子             | 小刀               |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：B-7</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』6号 (伝世刀子その1)</li> <li>・最大長225m/m</li> <li>・柄の材質はコクタンと思われる</li> </ul>   |
| 附10 |     |                | 同上 さや            |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：B-7α</li> <li>・平成29年10月31日調査 (京都造形芸術大学 伊達仁美教授 京都造形芸術大学大学院 今村葉 京都造形芸術大学大学院 佐々木麻衣 京都造形芸術大学3回 清彩華 京都市文化財保護課 福持昌之)</li> <li>・最大長140m/m、直径20m/m</li> <li>・竹製</li> </ul>  |
| 59  |     | 印刀             | 彫刻のみ 四分          |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹中大工道具館分類：D-9</li> <li>・『竹中大工道具館研究紀要』6号 (伝世刀子その2)</li> <li>・最大長226m/m</li> <li>・柄の材質は、カシと思われる</li> <li>・銘「家道」</li> </ul>  |
| 60  |     | 道具箱            | 道具箱              |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年10月31日調査 (京都造形芸術大学 伊達仁美教授 京都造形芸術大学大学院 今村葉 京都造形芸術大学大学院 佐々木麻衣 京都造形芸術大学3回 清彩華 京都市文化財保護課 福持昌之)</li> <li>・最大長695m/m、上面は深さ100m/m、引出上段の高さ690m/m、中段の高さ810m/m、下段の高さ119m/m</li> <li>・四脚の唐櫃の形式に近い</li> <li>・脚は底面まで帯状に繋がる</li> <li>・蓋裏貼紙2点 (本文註3、7)</li> </ul> |

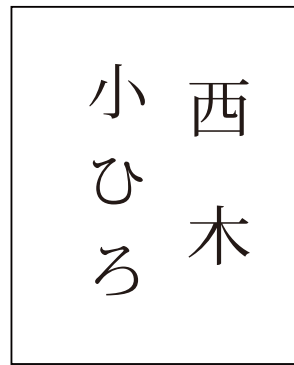
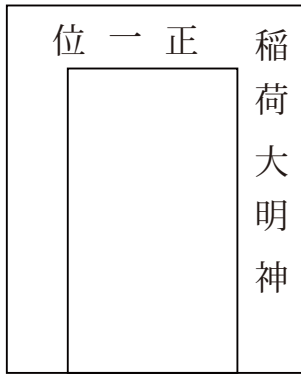


〔腹面〕



〔背面〕

○突鑿 鞘 (「一覧表」附8)



〔右側面〕



〔左側面〕

○突鑿 鞘（「一覧表」附5）  
〔背面〕



夕  
あ  
か  
あ  
ら  
ん  
か  
ぎ  
り  
の  
神  
の  
要  
石  
米  
屋  
ぬ  
く  
し

○叩鑿 鞘（「一覧表」附6）  
〔背面〕



小  
ひ  
ろ  
尺  
長

○突鑿 鞘（「一覧表」附7）  
〔背面〕



本  
亀  
大  
ひ  
ろ  
檜  
わ  
だ  
そ  
木  
口  
六  
ば  
い  
三  
之  
口

〔腹面〕



志  
川  
大  
通  
堂

